【横浜市総合リハビリテーションセンター】

●今回私は、以前から興味のあったリハについて、実際の現場の様子などをもっと知りたいと思い、横浜市総合リハビリテーションセンターでお世話になりました。

横浜市総合リハビリテーションセンターは、大学病院とは異なり、急性期の患者さんではなく、回復期の患者さん、あるいは、なんらかの障害を伴ったまま生活している患者さんを対象としていました。医師だけではなく、PT やソーシャルワーカー、車椅子等の製作にかかわるエンジニアなど、多職種の方々と接する場面が非常に多くありました。

私自身がリハに興味を持ったきっかけは、整形外科的なリハを自身が体験し、回復過程を体験したことでした。ですから、意識したことはありませんでしたが、無意識のうちに「リハ＝身体機能の回復」ととらえていたように思います。

しかし、脳・神経系に起因する障害、先天的な障害というものは、完全な機能回復や身体能力の向上が得られるわけではありません。それでも、患者さんが、「可能であれば身体機能を以前と同じレベルまで戻したい」と考えていることが、わずかな見学時間であっても感じられました。そのような人にとって、身体機能は改善しないから、リハはやらなくていいや、というものではなく、機能改善には限界があることを理解し、それでも自分の現状を受け入れ、以前とは違う手段で日常を取り戻していくこと、その過程すべてをリハと呼んで頑張っていくことが本当に大切なことなのだと感じました。

この２日間で、ぼんやりと想像することしかできなかったリハの現場を見ることができ、その中で医師が果たしていくべき役割を、なんとなくですが感じることができ、よかったと思います。場所が変われば、同じリハでも求められることは変わってくると思います。ですからなるべくさまざまな現場を見て、リハについて知識をつけるだけでなく、考えを深めていきたいと思います。２日間ありがとうございました。

●この実習のおかげで、私が盲目的に抱いていた障害者に対する印象は 180 度変わりました。私ははじめ、障害のある人はそれを悲観的にとらえてしまって、落ち込んでばかりいるのではないかという偏見を持っていました。もちろん、彼らもリハや仕事など日々苦労していることも多々あるかもしれませんが、スポーツで汗を流す姿、食堂で談笑する姿、熱心にリハをしている姿などの現場に実際立ち会うと、程度の差こそあれ、障害者は自身の障害を受け入れながら（もしかしたら心の奥では受け入れられない人もいるだろうけど）、それぞれの人生を楽しく生きているように感じました。

また、この実習で障害者の視点から物を考えてみたいと思うようになりました。車椅子の形状や操作性、補装具の材質や色、障害者スポーツ、いずれも今まで目を向けてこなかったことが多いのですが、これからゆっくり考えていきたいです。特に私は、過去にスポーツ医科学を専攻していたこともあり、障害者スポーツに関わっていきたいと思っています。さらに、もし私に障害があったらどうするか？もし両親や将来の私の子どもに障害があったらどうするだろう？とふと考えました。本当に受け入れられるだろうか？自分のことも相手のことも受け入れるにはどうしたらいいのか、時間はかかるかもしれませんがこれからの課題になりそうです。

この実習を通して、多くの先生方に大変お世話になりました。これからも横浜市総合リハビリテーションセンターで実習（見学）したことを心にとめておき、今後の進路や私の将来像を考えていきたいなと思っています。２日間本当にありがとうございました。

【佐久総合病院】

急性期・回復期・維持期と幅広いリハについて学ぶことができる総合病院は、全国でも数少ない。佐久総合病院は地域の基幹病院であり、あらゆる年齢層の様々な障害を有する患者が入院している。この実習で私は３日間リハ科で、また４日目の最終日には、総合診療科で実習をさせていただいた。患者さんや研修医の先生方、セラピストの方々との交流も多く、充実した一週間を過ごすことができた。

リハ医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士らのシャドーイングを通じて、実習では患者がその人らしく生きる権利を回復できるよう、リハ医が中心となって支援することの重要性を学んだ。脳卒中の後遺症として嚥下機能が低下した患者には、嚥下機能評価を行い、その患者に適した食形態の嚥下食を検討する。自立歩行に不安のある患者には、その患者に適した装具を検討し、それを処方することもある。リハ科では、リハ医をはじめ、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士らが一丸となって患者のニーズを分析し、そのニーズに応じた支援行うことが大切であることを学んだ。

実習では、医師の見学のみならず、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士の方々にも暖かく迎えられ、それぞれの専門性について学ぶ機会が多くあった。作業療法や嚥下機能評価、言語聴覚療法を行う所を見学させていただいたり、理学療法を体験させていただいたりすることで、それぞれのセラピストの方々の専門性についてや、リハにおけるそれぞれの役割について知識を深めることができた。この短期間で、急性期から回復期までの幅広い疾患を有する幅広い年齢層の患者に出会い、貴重な経験をさせていただけたのは、佐久総合病院が地域住民を主体とした地域の基幹病院として、保険・医療・福祉が一体化した総合的センターの役割を担ってきたからであると実感することができた。
最後になりますが、私を暖かくご指導して下さったリハ科の先生方をはじめ、総合診療科の先生方、佐久総合病院の先生方、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師の皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

【新潟大学医歯学病院 総合リハビリテーションセンター】

二日間、大学病院と N 病院の実習に参加して、それぞれの病院の特色を肌で感じるとともに、そこで働く人々、そこに来院する患者さんの姿を間近でみることができ、本当に勉強になりました。

先生方には見学だけでなく、患者さんと話す機会を与えていただき、リハ医が患者さんの生活に密着していることをより実感することができました。

その中でも、先生と患者さんのとの会話や触診などは、私の思う医師の理想像そのものであり、それだけでなく、少しでも患者さんの QOL を向上させようと、福祉のパンフレットを利用しながら相談にのる姿にはとても感銘をうけました。

これらの経験が、私の将来の医師像の素地になったことを、今、実感しています。そして、私はリハ医の道に改めて魅力を感じたと同時に、先生のような医者になりたいと思いました。素晴らしい医師になれるよう、これからしっかり勉強しようと思います。

2 日間、ありがとうございました。

【第 21 回伊豆リハビリテーション夏季セミナー】

今回、はじめて伊豆リハビリテーション夏季セミナーに参加させていただきました。私は、薬学部（4 年制）を卒業したのち、医学部に編入をしました。脳神経科学分野の基礎医学研究者をもともと志していましたが、現在では、患者さんと心を通わせることのできる臨床医を希望しています。総合医・家庭医やリハ医に関心があります。

私の大学では正式なリハの講座や講義がなく、自分で本を見つけようとするもののなかなか見つからず、今年６月の日本リハ医学会学術集会に行き、セミナー関係の情報を得たことが今回の参加のきっかけです。リハの基本から最新の話題まで広く学びたいと思い、参加しました。

初期臨床研修マッチングの採用試験の関係で、私は２日目朝からの参加でした。まず、書籍の紹介の講義があり、とても役立つ情報を提供していただきました。そのあと、NTT 東日本伊豆病院のリハ病棟施設を見学しました。病院の建物が低層で敷地面積が広く、リハを行うのに十分なスペースが確保されていると感じました。NTT 東日本の社員の人間ドックも行われるということで、落ち着いた雰囲気で過ごせる機能が充実した病院だと思いました。365 日体制でリハが行われていることを初めて知りました。デイケア実習では、利用者の方と簡単な会話をしたり、嚥下のための体操をみんなでやったりしました。装具実習では、cane と clutch の違いについて知ることができました。松葉杖を使って歩くのは初めてでした。車椅子の体力テストも興味深かったです。「リハ処方を書いてみよう」の実習も、実際の症例に則って、患者さんを直接診察し、点数をつけるところまで話し合いながら行うことができ、思考のプロセスを学べました。

３日目朝の米国留学のすすめや、研究の裏話、小児リハの取り組み等も面白かったです。リハで扱うことができる分野が多岐にわたり、ユニークな研究ができるということを知りました。

宴会も非常に楽しませていただきました。ユーモアあふれる先生が多く、医師としての充実した人生を歩まれていらっしゃるのだと感じました。私の質問にもとても親切に教えていただきました。若手医師、研修医の先生方とも、たくさん意見交換をすることができてよかったです。

非常に密度のある、有意義なセミナーでした。またの機会があれば是非参加させていただきたいです。ありがとうございました。

【藤田保健衛生大学】

●医学部１年生

まだ 1 回生で医学の知識など全くない状態だったので少し不安でしたが、ホームページからメールで質問した際に 1 回生でも大丈夫ですと言って頂けたので参加を決めました。実際には分からないことも多く、これから先の必要な勉強量に不安も感じましたが、セミナー中はどの先生方も分からないことを聞くととても丁寧に教えてくださり、すごく有難かったです。リハ医学についても全く予備知識のないままのぞみましたが、今までは内科、外科、眼科といったような科しか知らなかったのですが、リハ医という存在や、リハ医の先生方がどのようなことをしているのかを具体的に知ることができて、とても貴重な体験ができました。初めて内視鏡を触ったり、介助の経験もさせて頂けたり、患者さんの自宅を実際にも訪問したり･･･とても楽しく、ためになるセミナーでした。

患者さんが院長先生に「先生のおかげでこんなに歩けるようになりました。ありがとう。」と言っていらしたのがとても印象的でした。改めて医学生になれてよかったと思いましたし、今後も患者さん

を助けることのできる医師になれるよう一生懸命勉強しようと感じました。先生方、看護師の方々、療法士の方々、ありがとうございました。まだ 1 回生なので、また機会があればぜひ参加させて頂きたいです。

●医学部 2 年生

3 日間、非常に濃密な時間を過ごすことができました。リハ科の社会的ニーズを実感するとともに、少しのことでも他科の医師にとって重要なことを知ることができました。学生にとってもわかりやすい内容でありながらも、研修医の先生方にとってもニーズの高いものであったと考えると、まだまだ医療現場においてリハの需要のギャップは大きいと感じました。また、現状だけではなく未来の夢のある話も聞くことが出来たのは非常に興味深く、臨床・研究ともにホットな科だと実感しました。医局の方々には 3 日間を通して本当に良くして頂いて充実したセミナーになったと思います。ありがとうございました。また次回の参加してみたいと思います。

●医学部 5 年生

もともと神経内科志望でしたが、リハの重要性を感じる機会がいくつかあり、未だ未発展の領域が多いので研究しがいがあると思い、今回セミナーに参加させて頂きました。自分の大学にはリハ科の授業はほぼないので、初めて知ることばかりで大変おもしろかったです。また、ただ興味はあったもののリハ科医師というものがいったい何をする仕事なのか、具体的なイメージが何一つなかったのですが、今回のセミナーでかなり明確なビジョンをもつことができました。七栗では一般病棟の暗い雰囲気とは違って、前向きにリハに励む患者さんの姿が印象的でした。まだ自分の進路は決められませんが、選択肢の一つにリハ科というものが浮かんできたように思います。またセミナーに参加するきかいがあればよろしくお願いします。

●医学部 5 年生

今回リハ体験セミナーに参加させて頂き、本当に様々なことで勉強させて頂いたり、よくしてくださってありがとうございました。リハについてはほとんど知らなかったのですが、その必要性と重要性を知ることが出来ました。医学部で勉強していて、体を動かして自分の生活をおくれることがどれほど大切か今まであまり考えてこなかったように思います。病気の治療のみならず、その後の患者さんの生活までも考慮できる医師になれたらと思いました。3 日間参加させて頂いたことで、アカデミックな部分も見学させて頂いて、リハの研究がどういうものか少しわかりました。バランス訓練ロボットは特に興味深かったです。脊髄損傷の人の生活というのは、制限が多いものだと実感しましたが、車を運転したり仕事ができる人もいる、ということを知ることができました。

●研修医 1 年

今回、リハの最先端のことや、トピックなど知れてリハに興味がわきました。参加してよかったです。リハ医の 1 日や、小児リハについて知ることができたらと思います。2 日間だけでしたがどれも面白く飽きることのない内容で満足でした。

●研修医 1 年

貴重な体験ができて、ありがとうございます。リハ治療の体験もよかったですが、半測空間無視と

いう、実際に患者さんが置かれている状況を実体験できたのは実感がわいて良かったです。また、実際の患者さんの例をとって、どんなリハ処方がいいいか、ゴールはどこなのかをまず自分たちで考えるのも、医師としての実感をより強く感じました。今日はありがとうございました。

●研修医 2 年
　初期研修中リハローテがないカリキュラムであったため忘れがち（軽視しがち）な分野でありましたが、今回セミナーを通してリハの重要性を再確認しました。特に誤嚥関係は日常のレーテ中もよく出くわし、対応に困る問題であったので今回のセミナーがためになりました。今後活かしたいです。このような垣根の低くしかし実のあるセミナーを開催する藤田のリハ科はすごいと思いました。ありがとうございました。

●研修医 2 年
　１日だけの参加にも関わらず、参加を受け入れて下さりありがとうございます。ふだん勉強することが少ないリハについて学べたこと、実際の検査、開業されている先生のお話を聞くことができて非常に有意義でした。また、時間をみつけて参加したいと思います。

●医師 3 年目
　嚥下内視鏡で、実際に体験できたのはよかったです（患者側としても）。消化器内科、内科で誤嚥や肺炎症の患者さんをもっていますが、リハ科としての視点を学べました。今後の診療にいかしたいと思います。去年とは違い、リハの必要性を感じて参加できたので、よい経験ができました。ありがとうございました。

●医師 3 年目
　日頃の診察の中で必要と考えながら行っているリハと、またそれとは離れた先端の内容も触れることができてとても勉強になりました。また、学生時代を含めて全く学んでこなかったリハの基本的な内容を勉強する機会をもててありがたかったです。回復期や維持期も考えながら、急性期の対応を考えられるよう努力していきたいと思います。3 日間ありがとうございました。

●医師 14 年目
　最終日のみの参加で大変残念でした。これまで急性期の医療ばかりやってきた私が、リハの領域も診療を行うにあたり、何から手をつけていいのか分からないというのが正直な感想です。ゆっくりと時間をかけて概論～各論と順序たてて学ぶのもいいですが、現場の患者さんは待ってくれません。日々経験を重ね、実践主義に基づいて学んでいけたらと思います。短い時間でしたが、リハを専門とする病院のスタッフのモチベーションの高さに触れることが出来、大変参考になりました。

【鹿児島大学霧島リハビリテーションセンター】
●私は、今回のセミナーでリハ医の役割や、センターでのチーム医療（役割分担）について知ることができたのが、自分にとって良かったことだと思います。なぜなら私はこれまで病院で実習をしたことはほとんどなかったので、これらに対するイメージがなかったからです。なので、これから上の学

年で学んでいくにあたって、ここでの経験を生かして、患者さんの急性期の治療だけでなく、社会復帰まで考えられるようになろうと思います。

●僕は、3 泊 4 日で霧島リハビリテーションセンターにお世話になりました。このセミナーに参加したきっかけは、医師とリハビリテーションと聞いてもピンとこなく、またリハ医と OT･PT の仕事の違いがわからずモヤモヤしていたからです。こんな曖昧な動機ではありましたが、先生方の、患者さんと真摯に向き合う姿から多くのことを学ぶことができました。人を最後まで諦めない姿が印象的でした。例え完治しない病気や障害を抱えていても、より幸せを感じられる生活をしてほしいという熱い思いが伝わってきました。その思い故に、さまざまな素晴らしい工夫がなされていました。もちろんチーム医療が実践されており、他職種のスタッフとの情報交換も適宜行い、患者さんの心と体両方に目を向けた、全面的なサポート体制が整えられていました。こちらのセンターでは、医師も頻繁にリハ室を訪れ、患者さんのリハに直接関わることも多かったです。これにより、最終的な治療方針を決定するリハ医の言葉に重みが増し、患者さんの心にも深く届き、患者さんが納得したうえで訓練を継続できる可能性が高まります。

リハ室では、生き生きと訓練されている方もいらっしゃいましたが、効果がすぐに出ず辛そうに地道に訓練されている方もいらっしゃいました。苦しい状況でも日々の反復によって、今までできなかったことができるようになる。患者さんと治療者、家族が共有する、その一瞬の時間がとても感動的でした。一瞬だけれど、そこには大きな喜びと大きな幸せがあるのだと感じました。幸せは、病気が完治した後、あるいは退院した後だけに存在するのではなく、リハをしているその時にも生まれるものなのだと実感しました。

今回のセミナーで出会った先生方からのメッセージを受け止め、どの専門につくとしてもリハビリテーションという視点をもっている医師、になれるよう幅広く根気強く学んでいきたいです。

ありがとうございました。楽しかったです。

●2 日間、霧島リハビリテーションセンターで実習を受けさせていただきました。たった 2 日間の参加にも関わらず受け入れて下さり、充実した内容にしていただきました霧島リハビリテーションセンターの先生方には大変感謝しております。今回のセミナーに参加し実際の現場を見ることで、以前より興味のあったリハビリテーション医学は想像以上に奥深く、また面白いことを実感しました。またリハビリテーションとプライマリ・ケアは密接にかかわっており、地域医療を実践するにはリハビリテーションの知識は欠かせないことを霧島リハビリテーションセンターで働く先生方の姿を見て感じました。そして何より私自身しっかり勉強をしなければならないと痛感しました。またセミナーに参加する機会があれば、今以上の知識を持ち、今回の実習以上にたくさん学びたいと思います。貴重な機会を与えていただき本当にありがとうございました。

●座学と実習が、バランス良く組み合わされた、非常に充実したセミナーでした。特に、セミナー参加学生のためだけに、いくつか講義をしていただけたことは大変有り難かったです。公開講座や実習だけでは内容的に難しいこともあったので、とても助かりました。また、いつでも質問に答えてくださった先生がたに、心から感謝しております。更に、今回は、異なる学年の学生さんと一緒に実習させていただいたことで、其々の学年における視点からの気づきや学びを共有でき、非常に有意義でした。

「脳の可塑性」という言葉は、これまで神経内科の授業などで、なんとなく耳にしたことはありましたが、そこから、こんなにも論理的でアグレッシブなリハが行われていることは、大変驚きでした。しかし一方で、世界最先端のリハを行いながらも、利き手交換などの代償や環境の改善を目指す、従来のリハのあり方もしっかり重んじ、患者さんのニーズに一番合う形で組み回せていらっしゃることに、私は感動を覚えました。
　リハの語源である「再び・人間としてふさわしい」状態になる、とはどういうことなのか。一人一人異なるであろうその解を常に考え、寄り添っていくことの重要性を学んだように思います。
このように患者さんのニーズを汲み取ったり、あるいは効果的な機能回復を目指すために患者さんを動機付け、積極的な協力をもらったりするためには、医師・患者関係や、医師とコメディカルの方々との連携が、非常に鍵を握る領域であり、それは難しい反面、とても魅力的だなと感じました。

　４日間のセミナーを通して、今後、高齢社会や生き方の多様性が進む中で、リハへのニーズがますます高まっていくことが理解できました。また、今後ますます発展していくであろうと実感できた、リハビリテーション医学に大変わくわくしております。
　貴重な経験をありがとうございました。

●私は既に実習で内部障害リハをみていたのですが、今回のセミナーでは主に脳梗塞後のリハを勉強出来ました。
　同じリハでも原因となる疾患によってすることが大きく異なるというのが印象的で、脳梗塞後の場合、麻痺や特有の姿勢をカバーしつつＡＤＬ動作ができるようにすることと、麻痺側をまた動かせるようにすること、が大きな柱だと感じましたが、それぞれについて実際にどのようなリハが行われているかをみることができました。
　特に、先生方が直接リハ室で患者さんの動きをみて、指導されているところや、回診もリハ室で行われているのがとても理想的だと思いました。

　また、リハというエビデンスの出しにくい分野で様々な研究が行われていること、海外に広がろうとしていることなどのお話もとても興味がわきました。

　今回のセミナー後の病棟実習で、脳梗塞の患者さんに出会ったときに、自然と、この人はこれからこういうリハをすればいいんだな、と思い浮かんだのが一番の成果かなと思い、自分でも少し嬉しくなりました。
　学年や地域を超えて、意欲的な医学生のみなさんと知り合えたことも大きな収穫でした 。また、霧島の歴史や自然、温泉や食なども味わうことができ、楽しく実習を終えることができました。

　先生方みなさんが一つ一つ丁寧に教えてくださり、とても充実した４日間になりました。ありがとうございました。